

知っておけばためになる…

# お彼岸

ちよつと  
いい話

諸説もろもろ、

お彼岸の由来—

仏教の世界では、彼岸とはその名の通り「彼(向こう)の岸」という意味。サンスクリット語のパーラミター(波羅蜜多)を訳したもので、「到彼岸」のことです。迷いの世界である此の岸から、悟りの世界である彼岸に渡ることを教えています。

一方で「日の願」という言葉が「日願」となったという説もあります。太陽が真東から出て真西に沈み、昼と夜の長さが同じ春分・秋分は重要な節目とされていたからです。

お供えから学ぶ

六つの徳目の教え—

お彼岸に悟りを開き、到彼岸の境地に到るための教えが「六波羅蜜」。ここで教えられている六つの徳目(布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧)の意味は、お供え物(六種供養)から学ぶことができます。

布施と水(開伽)

全てを平等に慈しみ養う水から、見返りを求めず、喜んで与える布施の徳を学ぶことができます。

持戒と塗香(体に塗る香)

汚れ、臭いを清めて清涼にするための塗香から、身心を清めて戒律を守る持戒の大切さを学ぶことができます。

忍辱と花(華鬘)

厳寒酷暑に耐え、咲き誇る花から、苦痛に耐え忍ぶことを学ぶことができます。

精進と線香(焼香)

消えることなく最後まで燃え尽きる線香から、真実の道をたゆまず実践し、精進し続けることの重要性を知ることができます。

禪定と飲食

人は空腹時には怒りっぽくなりませんが、食事をとると心が落ち着きます。飲食から、精神統一し、心を落ち着ける禪定を学びましょう。

智慧と燈明

迷いを除き、悟りを導く「仏様の智慧」に例えられるロウソクの火は、ありのままを見つめ真実を見極めることの大切さを教えています。

お供えを通して六つの徳目を実践し、日常を正すことが、お釈迦様の教え、「彼岸の道」なのです。

お納めします！

お釈迦様のもとへ—

臨南寺では、三月十八日(月)〜二十三日(土)のお彼岸期間中、九時半より四時までお写経していただけます。一文字書くたびに仏

おはぎ？

ぼたもち？

お彼岸に供えるのは、さあ—どっち？

実は、おはぎとぼたもちは同じもの。秋の季節・秋のお彼岸では、小豆の粒を秋の花に見立てて「おはぎ」と呼びました。一方、牡丹の季節・春のお彼岸に供えるため「牡丹もち」と呼ばれたのが、「ぼたもち」と変化したと言われています。



様を一体刻むと言われる写経は、邪念を払い、功德と浄福を授かります。大切なのは文字の上手・下手ではなく、心を込めて丁寧に書き写すこと。お写経は、懇ろにご回向させていただいた後、お釈迦様生誕のネパール・ルンビニー仏教寺院にお納めいたします。



ルンビニー仏教寺院のピマラナダ園と

0120(フリー)493



# 布施の心を大切に

含松山 臨南寺住持 渡邊 剛毅

世界的に見てもそうですが、日本も昨年はあまりいい年ではなかったように思います。しかしこれは、小泉総理二人の責任ではない。国民一人ひとりが、日本という国を良くしようという自覚を持って努めなければならぬように思います。

正月三が日でも、各地の神社やお寺へお参りされる人数は増えています。しかしお賽銭は減っている。皇室にゆかりの深い明治神宮でも同じだそうです。敬神崇祖の念が薄くなつたわけでもない。まして、日本人の生活レベルが上がリ、給料の額も高くなっているはずなのに、どうしたことでしょうか。

仏教で大切にされている言葉に「布施」があります。布施というのは、もともと、お互いに尊敬

し助け合うという意味です。布施にもいろいろあり、お金を施すこともそうですし、労働で奉仕したり、やさしい言葉をかけることも布施なのです。布施を心掛けていれば、いつか彼岸に渡れるといえます。私たちは布施の心をいつまでも忘れたくないものです。

私はいま本山の總持寺に上がつており、皆さんに迷惑をかけているところです。本山では、十二月三十一日大つごもりの日には、午後十二時四十五分の振鈴とともに起床し、零時より除夜の鐘を叩きます。大勢のお参りの方も参加して、百八つの煩惱を鐘の音とともにつぶしていきます。本堂では、日本国の平安を願ひ、宮中から国民に至るまでの平穩無事、商売繁盛を祈願して、一山の僧全員で「祈禱し続けるのです。

日本人は、伊勢神宮や住吉大社に初詣して、その足でお寺へお参りします。これが、日本人のあり方です。一神教ではありえないことです。でも、こうした日本人の良さがいつか世界でも評価されるべきだと、私は信じています。

今年一年も健康に気を付けて大いにがんばりましょう。



合掌

## 臨南寺 行事予定

### ◇彼岸会

三月二十四日(日)午後二時～三時  
亡くなられた方に読経をあげ、先祖供養の法要を行います。

### ◇親子坐禅会

四月七日(日)午後二時～三時  
定員十組 無料(要予約)

※坐禅の後、石ころアート(トールペーパー)体験教室を開催します。  
河原で採取した石の形をいかして、絵を描きます。  
さて、あなたには何に見えるかな？



### ◇マトリ合同法要「若葉祭」

五月十二日(日)午後一時～  
読経や焼香、講話など、法要を機に親交を深めます。マトリ申込者以外の方もご参加いただけます。

## 方丈禅談



心休まる憩いのひととき

私だけの

ほーっとしたいむ



人それぞれに違つ、心が落ち着くとき。さて、読者の方から届いたのは、どんな「ほーっと」する時間でしょう？

**銭** 湯でほーっと

この時期でも仕事柄、暖房が使えないので、夫婦で銭湯へ行き冷え切った体を暖めるとき。

山本 志さん 60代 自営(花屋)

**思** い出の味にほーっと

今、流行りの健康茶。子供の頃、祖母が近くで摘んだ野草で作ってくれたお茶を思い出します。

津田 恒洲さん 20代 学生

**納** 品完了でほーっと

受注から納品まで起こる様々な問題を解決し、仕事の完了を確認できたとき。

野原 豊二さん 50代 会社経営

**お** 参りしてほーっと

日課のお参りを終えたとき。健康なのは毎日のお参りのおかげです。

寺田 久子さん 70代 無職

**手** 芸でほーっと

朝のうちに掃除を済ませて、ゆっくり趣味の手芸をするとき。

山ト セウ子さん 80代 主婦

**あ** なたの

ほーっとしたいむ

大募集日

あなたの「ほーっと」する時間を編集室までお気軽にお寄せください。

**恒例の弁天様祈禱会**  
今年は振舞甘酒も

今年も正月十五日、厄を払い福を招く弁天様祈禱会が修業されました。本堂一杯に集まった檀信徒の皆様の見守る中、方丈より新年のご挨拶があり、お坊様方が「大般若経」を転読しました。そのあと、参詣の皆様には「大般若経」の経本でお加持をし、二年間の「無病息災、延命長寿」をご祈念、ご祈禱札が授与されました。

さらに紫雲殿において、大本山總持寺の吉野単頭老師による法話がありました。坐禅の手ほどきを受けるとともに、「生きるとは?」「空とは?」など示唆に富んだお話を聞くことができました。

藤田総代によるご挨拶のあと、一年の健康と家内安全を祈って振舞甘酒をいただきました。



**坐禅会**

毎月二十日 時間/午前十時~午後二時  
定員/三十名 献香料(お志)

**写経会**

毎月二十日 時間/午前十時~午後四時  
定員/二十名  
写経料(納香料含む)/二〇〇〇円  
※三月十八日(月)~二十三日(土)の  
お彼岸期間は毎日開催。

**早朝坐禅会**

日時/第一土曜日午前六時三十分~  
※四月六日より実施いたします。

**書道教室**

日時/第二木曜日午前十時~  
第四木曜日午後二時  
定員/二十名 受講料/二五〇〇円(回)

**絵手紙教室**

日時/第二木曜日午後二時~  
第四木曜日午前十時  
定員/二十名 受講料/二五〇〇円(回)

**新しい講習会が始まります**

**季節の色紙づくり~日講習会**  
日時/第一日曜日午後二時~四時  
定員/二十名 受講料/二〇〇〇円(材料費別)

講師・岩木千舟

「ほーっと」5号

平成14年3月

編集・発行: 桜伽林「ほーっと」編集室  
〒546-0034 大阪市東住吉区長岑公園1-32

TEL: 0120-711-493

TEL: 06-6698-1001 FAX: 06-6697-3330

Eメール: ryoagarin@shuonden.co.jp

ホームページ: http://www.shuonden.co.jp

**編集後記**

昨年より情勢がよくない世の中ですが、せめて昔からの伝統や風習を後から子へと、代々受け継いでいきたいものです。皆様よりいただいた「ほーっと」をご覧になって、「ほーっと」する時間を過ごしてください。今後とも、ご意見、ご感想をお聞かせくださいませ。

※いずれも事前のお申し込みが必要です。